

監査報告第24号

平成15年2月7日

財政援助団体等監査結果報告

[財団法人 神戸国際観光コンベンション協会]

神戸市監査委員	近	谷	衛	一
同	寺	坂	光	夫
同	福	浪	睦	夫
同	吉	田	謙	治

地方自治法第199条第7項の規定に基づき実施した平成14年度財政援助団体等監査について、同条第9項の規定によりその結果に関する報告を次のとおり決定した。

1 監査の対象

財団法人神戸国際観光コンベンション協会（以下「協会」という。）における出納その他の事務（財政援助及び公の施設管理委託に係る出納その他の事務を含む。）で、主として平成13年度執行の事務

2 監査の期間

平成14年10月1日～平成15年2月7日

3 監査の方法

監査は、出納その他の事務が法令等に基づき適正に行われているかについて、関係書類の調査とともに、関係職員に対する質問等の方法により実施した。

4 団体の概要

(1) 設立の趣旨

協会は、神戸市における観光事業の振興を図り、もって産業経済の発展と市民文化の向上に資し、あわせて国際観光を通じ国際交流及び国際親善に寄与することを目的として、昭和62年4月に財団法人神戸国際観光協会として設立された。その後、解散した財団法人神戸国際交流協会から、平成11年4月にコンベンションに関する事業を引き継ぎ、財団法人神戸国際観光コンベンション協会に名称を変更している。

(2) 事業の概要

協会及び事業所の所在地は、第1表のとおりである。

主な事業は、第2表のとおりである。

第 1 表 協会等の所在地

事業所	所在地
協会（事務所）	中央区港島中町6丁目9-1
神戸国際会議場	中央区港島中町6丁目9-1
神戸国際展示場	中央区港島中町6丁目11-1
神戸ポートアイランドホール （ワールド記念ホール）	中央区港島中町6丁目12-2
須磨海浜水族園	須磨区若宮町1丁目3-5
国民宿舎須磨荘（シーパル須磨）	須磨区須磨浦通1丁目1-1
神戸市総合インフォメーションセンター	中央区三宮町1丁目7
新神戸駅観光案内所	中央区加納町1丁目3-1
北野観光案内所	中央区北野町3丁目10-20
有馬温泉の館「銀の湯」	北区有馬町1039-1
萌黄の館	中央区北野町3丁目10-11

第 2 表 比較業務量

項 目	平成 13 年 度		平成 12 年 度	
観光案内所の運営 神戸市総合インフォメーションセンター	107,122人		169,585人	
観光案内所 宿泊案内所	市街地 977件, 有馬 17件		市街地 1,060件, 有馬 13件	
観光案内所 タクシー案内所	174台		188台	
新神戸駅観光案内所	56,501人		44,675人	
観光案内所 宿泊案内所	市街地 1,199件, 有馬 105件		市街地 1,109件, 有馬 126件	
観光案内所 タクシー案内所	179台		236台	
北野観光案内所	40,510人		27,377人	
観光案内所 宿泊案内所	市街地 34件, 有馬 3件		市街地 84件, 有馬 5件	
観光案内所 タクシー案内所	3台		22台	
シティー・ループバスの運行	乗車人員 449,913人		乗車人員 479,282人	
神戸国際会議場の運営	31件 参加人員 77,672人		36件 参加人員 41,390人	
国際会議場	385件 参加人員 85,303人		325件 参加人員 179,838人	
神戸国際展示場の運営	89件 入場者 747,103人		110件 入場者 667,789人	
展示会	57件 入場者 115,787人		32件 入場者 48,880人	
神戸ポートアイランドホールの運営	59件 入場者 288,136人		57件 入場者 360,537人	
須磨海浜水族園の運営	入園者 1,027,584人		入園者 1,209,915人	
国民宿舎須磨荘の運営	宿泊 38,020人 休憩 125,925人		宿泊 38,914人 休憩 134,857人	
有馬温泉会館の運営	入場者 133,376人		入場者 323,585人	
有馬温泉の館「銀の湯」の運営	入場者 121,878人		-	
萌黄の館の公開	有料 158,518人 無料 33,759人		有料 167,833人 無料 33,344人	

(注) 有馬温泉会館は平成13年9月9日営業終了, 有馬温泉「銀の湯」は平成13年9月13日開業

(3) 本市との関係

協会の基本財産は、1億3,000万円であり、本市が全額を出捐している。

平成13年度は、補助金として、神戸21世紀・復興記念事業、コンベンション事業、都心周遊観光バス（シティー・ループ）事業等に8億3,956万円を交付している。

また、公の施設の管理委託料として、須磨海浜水族園、神戸ポートアイランドホール、有馬温泉の館「銀の湯」の管理運營業務に12億8,327万円を支出しているほか、利用料金制により、国民宿舎須磨荘、神戸国際会議場及び神戸国際展示場の管理運営を委託している。

このほか、観光案内所事業、コンベンション推進事業等を委託している。

平成13年度末において、市長が会長に、本市派遣職員2人が常勤の常務理事に就任している。職員数は90人であり、そのうち本市派遣職員は27人である。

(4) 経営状況と財政状態

協会の会計は、公益事業会計、収益事業会計及び神戸21世紀・復興記念事業特別会計（平成13年度まで）に分かれている。会計処理は公益法人会計基準を適用しており、消費税処理は税込処理である。

公益事業会計は、観光事業、市からの受託料を伴う受託事業等の公益事業を経理し、収益事業会計は、国民宿舎須磨荘等の利用料金制による管理運営事業、施設に附帯する売店、レストラン等の運営事業等の収益事業を経理し、神戸21世紀・復興記念事業特別会計は平成13年9月30日まで市内一円で開催された同事業を経理している。

ア 公益事業会計

(ア) 収支状況

収支状況は、第3表のとおりである。

第3表 比較収支計算書（公益事業会計）

(単位 金額：千円)

科 目	平成13年度	平成12年度	対前年度 増 減	
	金 額	金 額		
収 入 の 部	基本財産運用収入	1,830	1,903	△ 73
	会費収入	3,815	4,335	△ 520
	受託事業収入	1,416,989	1,429,592	△ 12,603
	観光事業受託収入	9,215	15,325	△ 6,110
	観光案内所事業受託収入	88,550	81,105	7,445
	コンベンション推進事業受託収入	11,530	11,700	△ 170
	ホール事業受託収入	225,881	242,408	△ 16,527
	記念財団事業受託収入	24,000	24,000	—
	水族園事業受託収入	999,996	1,055,054	△ 55,058
	銀の湯事業受託収入	57,818	—	57,818
	補助金収入	144,198	154,016	△ 9,818
	観光事業補助金収入	28,000	22,700	5,300
	ループバス事業補助金収入	38,000	47,500	△ 9,500
	コンベンション推進事業補助金収入	78,198	83,816	△ 5,618
	事業収入	145,424	117,411	28,013
	観光事業収入	46,289	61,944	△ 15,655
	ループバス事業収入	30,277	5,688	24,589
	アマゾン館事業収入	62,400	45,933	16,467
	諸収入	6,458	3,846	2,612
	事業外収入	12,742	6,863	5,879
支 出 の 部	受取利息	12,742	6,863	5,879
	借入金収入	640,000	651,000	△ 11,000
	退職給与引当特定預金取崩収入	7,540	1,685	5,855
	繰入金収入	30,000	30,000	—
	当期収入合計(A)	2,402,538	2,396,804	5,734
	管理費	22,962	23,235	△ 273
	観光事業費	142,392	178,053	△ 35,661
ループバス事業費	64,708	62,283	2,425	
観光案内所事業費	88,550	81,105	7,445	
コンベンション推進事業費	111,084	110,625	459	
ホール事業費	225,881	242,408	△ 16,527	
記念財団事業費	24,000	24,000	—	
水族園事業費	999,996	1,055,054	△ 55,058	
アマゾン館事業費	706,120	644,415	61,705	
銀の湯事業費	57,818	—	57,818	
当期支出合計(B)	2,443,511	2,421,178	22,333	
当期収支差額(C=A-B)	△ 40,972	△ 24,374	△ 16,598	
前期繰越収支差額(D)	63,122	87,495	△ 24,373	
次期繰越収支差額(E=C+D)	22,149	63,122	△ 40,973	

(注) 金額は、千円未満を四捨五入している。

(イ) 正味財産増減の状況

正味財産増減の状況は、第4表のとおりである。

第4表 正味財産増減計算書 (公益事業会計)
(単位 金額:千円)

科 目		平成13年度 金 額
増 加 の 部	資 産 増 加 額	81,493
	什 器 備 品 購 入 額	2,597
	退職給与引当特定預金増加額	48,918
	修繕引当特定預金増加額	29,978
	負 債 減 少 額	658,540
	短期借入金減少額	651,000
	退職給与引当金取崩額	7,540
合 計 (A)		740,033
減 少 の 部	資 産 減 少 額	68,421
	当期収支差額	40,972
	退職給与引当特定預金減少額	7,540
	建物減価償却額	18,291
	車両運搬具減価償却額	580
	什器備品減価償却額	1,036
	負 債 増 加 額	718,896
	短期借入金増加額	640,000
退職給与引当金繰入額	48,918	
修繕引当金繰入額	29,978	
合 計 (B)		787,317
当期正味財産減少額 (C=A-B)		47,283
前期繰越正味財産額 (D)		246,304
期末正味財産合計額 (E=C+D)		199,020

(注) 金額は、千円未満を四捨五入している。

(ウ) 財政状態

財政状態は、第5表のとおりである。

第5表 比較貸借対照表(公益事業会計)

(単位 金額:千円)

科 目	平成13年度末	平成12年度末	対前年度 増 減
	金 額	金 額	
資 産	1,580,060	1,839,478	△ 259,418
I 流 動 資 産	408,883	722,347	△ 313,464
1 現 金 預 金	334,912	645,888	△ 310,976
2 未 収 金	73,971	74,551	△ 580
3 前 払 金	—	1,886	△ 1,886
4 立 替 金	—	22	△ 22
II 固 定 資 産	1,171,177	1,117,132	54,045
1 基 本 財 産	130,000	130,000	0
(1) 基 本 財 産 預 金	130,000	130,000	0
2 その他の固定資産	1,041,177	987,132	54,045
(1) 建 物	666,484	684,775	△ 18,291
(2) 車 両 運 搬 具	1,096	1,676	△ 580
(3) 什 器 備 品	2,292	731	1,561
(4) 投 資 有 価 証 券	17,000	17,000	0
(5) 退 職 給 与 引 当 特 定 預 金	316,849	275,472	41,377
(6) 修 繕 引 当 特 定 預 金	37,456	7,478	29,978

科 目	平成13年度末	平成12年度末	対前年度 増 減
	金 額	金 額	
負債及び正味財産	1,580,060	1,839,478	△ 259,418
負 債	1,381,039	1,593,175	△ 212,136
I 流 動 負 債	1,026,734	1,310,225	△ 283,491
1 未 払 金	183,050	554,139	△ 371,089
2 預 り 金	89,569	25,419	64,150
3 預 り 保 証 金	97,852	97,852	0
4 前 受 金	2,469	100	2,369
5 未 払 消 費 税	13,794	△ 18,285	32,079
6 短 期 借 入 金	640,000	651,000	△ 11,000
II 固 定 負 債	354,305	282,950	71,355
1 退 職 給 与 引 当 金	316,849	275,472	41,377
2 修 繕 引 当 金	37,456	7,478	29,978
正 味 財 産	199,020	246,304	△ 47,284
I 正 味 財 産	199,020	246,304	△ 47,284
(うち基本金)	(130,000)	(130,000)	(0)
(うち当期正味財産減少額)	(47,283)	(50,297)	(△3,014)

(注) 金額は、千円未満を四捨五入している。

イ 収益事業会計

(ア) 収支状況

収支状況は、第6表のとおりである。

第6表 比較収支計算書（収益事業会計）

(単位 金額：千円)

科 目	平成13年度	平成12年度	対前年度 増 減	
	金 額	金 額		
収 入 の 部	補助金収入	—	5,000	△ 5,000
	事業収入	2,378,821	2,403,961	△ 25,140
	国民宿舎事業収入	849,411	892,285	△ 42,874
	水族園付帯事業収入	329,907	389,327	△ 59,420
	有馬温泉会館事業収入	81,183	209,378	△ 128,195
	観光付帯事業収入	279,077	189,287	89,790
	会議場事業収入	199,738	188,962	10,776
	展示場事業収入	618,203	519,484	98,719
	ホール付帯事業収入	13,982	15,237	△ 1,255
	銀の湯付帯事業収入	7,321	—	7,321
借入金収入	—	26,000	△ 26,000	
退職給与引当特定預金取崩収入	10,563	9,360	1,203	
当期収入合計(A)	2,389,385	2,444,321	△ 54,936	
支 出 の 部	管理費	117,147	146,970	△ 29,823
	国民宿舎事業費	868,951	921,982	△ 53,031
	水族園付帯事業費	264,291	337,079	△ 72,788
	有馬温泉会館事業費	65,651	153,683	△ 88,032
	観光付帯事業費	236,652	176,257	60,395
	会議場事業費	298,422	278,936	19,486
	展示場事業費	455,117	364,790	90,327
	ホール付帯事業費	7,527	7,675	△ 148
銀の湯付帯事業費	3,462	—	3,462	
繰入金支出	30,000	30,000	—	
当期支出合計(B)	2,347,220	2,417,372	△ 70,152	
当期収支差額(C=A-B)	42,164	26,949	15,215	
前期繰越収支差額(D)	120,259	93,310	26,949	
次期繰越収支差額(E=C+D)	162,423	120,259	42,164	

(注) 金額は、千円未満を四捨五入している。

(イ) 正味財産増減の状況

正味財産増減の状況は、第7表のとおりである。

第7表 正味財産増減計算書（収益事業会計）
 (単位 金額：千円)

科 目		平成13年度 金 額
増 加 の 部	資 産 増 加 額	66,131
	当 期 収 支 差 額	42,164
	什 器 備 品 購 入 額	2,889
	商 品 増 加 額	21,078
	負 債 減 少 額	36,563
	短 期 借 入 金 減 少 額	26,000
	退 職 給 与 引 当 金 取 崩 額	10,563
合 計 (A)		102,694
減 少 の 部	資 産 減 少 額	44,726
	退 職 給 与 引 当 特 定 預 金 減 少 額	10,563
	商 品 減 少 額	27,463
	建 物 減 価 償 却 額	1,366
	什 器 備 品 減 価 償 却 額	5,333
合 計 (B)		44,726
当 期 正 味 財 産 増 加 額 (C=A-B)		57,968
前 期 繰 越 正 味 財 産 額 (D)		307,059
期 末 正 味 財 産 合 計 額 (E=C+D)		365,027

(注) 金額は、千円未満を四捨五入している。

(ウ) 財政状態

財政状態は、第8表のとおりである。

第 8 表 比較貸借対照表 (収益事業会計)

(単位 金額：千円)

科 目	平成13年度末	平成12年度末	対前年度 増 減
	金 額	金 額	
資 産	661,682	610,225	51,457
I 流 動 資 産	480,156	414,324	65,832
1 現 金 預 金	380,918	312,620	68,298
2 未 収 金	16,428	61,799	△ 45,371
3 売 掛 金	61,732	12,437	49,295
4 立 替 金	—	5	△ 5
5 商 品 材 料	21,078	27,463	△ 6,385
II 固 定 資 産	181,526	195,900	△ 14,374
1 その他の固定資産	181,526	195,900	△ 14,374
(1) 建 物	41,660	43,026	△ 1,366
(2) 什 器 備 品	15,866	18,311	△ 2,445
(3) コンベンション推進積立預金	124,000	124,000	0
(4) 退職給与引当特定預金	—	10,563	△ 10,563

科 目	平成13年度末	平成12年度末	対前年度 増 減
	金 額	金 額	
負債及び正味財産	661,682	610,225	51,457
負 債	296,655	303,166	△ 6,511
I 流 動 負 債	296,655	292,602	4,053
1 未 払 金	212,897	199,601	13,296
2 買 掛 金	24,806	33,467	△ 8,661
3 預 り 金	6,970	6,607	363
4 預 り 保 証 金	2,000	2,000	0
5 前 受 金	19,840	20,435	△ 595
6 未 払 消 費 税	10,141	4,492	5,649
7 未 払 法 人 税	20,000	—	20,000
8 短 期 借 入 金	—	26,000	△ 26,000
II 固 定 負 債	—	10,563	△ 10,563
1 退 職 給 与 引 当 金	—	10,563	△ 10,563
正 味 財 産	365,027	307,059	57,968
I 正 味 財 産	365,027	307,059	57,968
(うち当期正味財産増加額)	(57,968)	(63,263)	(△5,295)

(注) 金額は、千円未満を四捨五入している。

ウ 神戸21世紀・復興記念事業特別会計

(ア) 収支状況

収支状況は、第9表のとおりである。

第9表 比較収支計算書 (神戸21世紀・復興記念事業特別会計)

(単位 金額：千円)

科 目		平成13年度	平成12年度	対前年度 増 減
		金 額	金 額	
収 入 の 部	受 託 事 業 収 入	70,629	157,624	△ 86,995
	補 助 金 収 入	2,396,371	889,478	1,506,893
	事 業 収 入	98,000	77,500	20,500
	当 期 収 入 合 計 (A)	2,565,001	1,124,602	1,440,399
支 出 の 部	神 戸 2 1 世 紀 ・ 復 興 記 念 事 業 費	2,565,001	1,124,602	1,440,399
	当 期 支 出 合 計 (B)	2,565,001	1,124,602	1,440,399
当 期 収 支 差 額 (C=A-B)		0	0	0
前 期 繰 越 収 支 差 額 (D)		0	0	0
次 期 繰 越 収 支 差 額 (E=C+D)		0	0	0

(注) 金額は、千円未満を四捨五入している。

(イ) 正味財産増減の状況

正味財産増減の状況は、第10表のとおりである。

第10表 正味財産増減計算書 (神戸21世紀・復興記念事業特別会計)

(単位 金額：千円)

科 目		平成13年度 金 額
増 加 の 部	合 計 (A)	0
	資 産 減 少 額	125
減 少 の 部	什 器 備 品 減 価 償 却 額	125
	合 計 (B)	125
当 期 正 味 財 産 減 少 額 (C=A-B)		125
前 期 繰 越 正 味 財 産 額 (D)		644
期 末 正 味 財 産 合 計 額 (E=C+D)		519

(注) 金額は、千円未満を四捨五入している。

(ウ) 財政状態

財政状態は、第11表のとおりである。

第 11 表 比較貸借対照表 (神戸21世紀・復興記念事業特別会計)

(単位 金額:千円)

科 目	平成13年度末	平成12年度末	対前年度 増 減
	金 額	金 額	
資 産	50,724	344,535	△ 293,811
I 流 動 資 産	50,205	343,891	△ 293,686
1 現 金 預 金	△ 6,980	79,853	△ 86,833
2 未 収 金	57,185	264,037	△ 206,852
II 固 定 資 産	519	644	△ 125
1 その他の固定資産	519	644	△ 125
(1) 什 器 備 品	519	644	△ 125

科 目	平成13年度末	平成12年度末	対前年度 増 減
	金 額	金 額	
負債及び正味財産	50,724	344,535	△ 293,811
負 債	50,205	343,891	△ 293,686
I 流 動 負 債	50,205	343,891	△ 293,686
1 未 払 金	18,852	322,131	△ 303,279
2 未 払 消 費 税	31,353	21,760	9,593
正 味 財 産	519	644	△ 125
I 正 味 財 産	519	644	△ 125
(うち当期正味財産減少額)	(125)	(216)	(△91)

(注) 金額は、千円未満を四捨五入している。

5 監査の結果

経営状況は、公益事業会計において、須磨海浜水族園、神戸ポートアイランドホール、観光案内所等の受託事業は収支均衡しているが、観光事業の実施等により収支差額は、4,097万円の単年度赤字となっている一方、収益事業会計は展示場事業、水族園付帯事業等により収支差額は、4,216万円の黒字となっている。神戸21世紀・復興記念事業特別会計は収支均衡している。

事業面では、協会設立の目的に沿ってその役割を果たしていると認められた。補助事業は、補助金の交付目的を達成し、施設の管理運営については、受託事業の入場者数等の減少はあるものの、利用料金制による国民宿舎須磨荘の経営改善を図り、平成13年度から新たに有馬温泉の館「銀の湯」の管理運営を受託するなど、条例等に従っておおむね適切に管理運営されていた。

協会の出納その他の事務については、おおむね適正に行われているものと認められた。

しかし、事務の一部について次のような改善を要する事例が見受けられたので、今後適正な事務処理に努められたい。

- ① 神戸市の行政財産の使用許可を受けているが、これを第三者に転貸している事例が見受けられた。

行政財産の転貸は禁止されており、適正に措置すべきである。

- ② 都心周遊観光バス（シティループ）事業について、交通局からの平成12年度精算金が平成13年度決算に計上されている。

納入が遅れたためだが、その場合も、平成12年度決算で未収金として計上すべきである。

- ③ 固定資産等取得にあたり、決裁区分を誤って調達している事例が見受けられた。

適正な事務処理を行うべきである。

- ④ 神戸21世紀・復興記念事業特別会計の貸借対照表において、現金預金がマイナスとなっている事例が見受けられた。

不適正な措置である。

なお、平成14年6月に判明した須磨海浜水族園における現金事故について、管理体制の見直し、委託等の再発防止に向けた対応が取られたことを確認した。

以上、監査の結果を述べたが、観光コンベンション事業の振興のため、今後とも事業内容の充実を図るとともに、施設の効率的な運営を行い、より一層協会設立の目的の達成に努められるよう希望する。